

未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子供が育つ授業の創造

～地域社会に関心を持ち、主体的に学ぶ子供の育成を目指して～

名西郡広野小学校 教諭 大下 真季

1 主題について

県の主題「未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子供が育つ授業」を目指すため、3年生では、地域や社会、そこで暮らす人々の生活に関心を持ち、一人一人が学習課題を自分のものとして捉え、主体的に学び、追究できるようにすることが大切だと考えた。その過程の中で、実感的な理解を図りながら知識を獲得し（認識）、社会的な見方・考え方を働かせ、事実を根拠にして考え判断する力や、問題解決を図ろうとする態度を育てたい。

本校は、山間の神山町東部に位置する全校児童 29 名の小規模校である。家庭や地域は協力的で、子供たちは落ち着いた環境で学習できている。地域での校外学習や出前授業なども積極的に行うことができる。しかし、子供たちは自分の足で地域に出ることが少なく、身近な地域のことをあまり知らない。町内の施設や店舗を利用することがない子供も多く、日常生活の中で地域のことを知る機会は少ない。3年生から始まる社会科で、地域社会や人々の生活に関心を持たせ、そこから学んでいくことは重要だと考える。

本単元「神山しいたけの人気のひみつをさぐる」では、生産の仕事として椎茸組合の椎茸作りを取り上げる。椎茸は神山町の主な農産物の一つで、椎茸組合では、品質管理を徹底し、肉厚で味の良い椎茸を作っている。見学やインタビューなどの実地調査を生かし、主体的に調べ学習が行えるようにするとともに、椎茸作りに携わる人々の、よりよいものを作ろうとする姿を知り、味や品質を支える仕事の工夫や努力を実感的に理解できるようにしたい。また、認識と判断を育む場面の設定やその手立てを工夫することで、働く人の思いや願い、地域の人々の生活とのつながりを考えることができるようにしたい。

2 研究の仮説

(1) 子供の意識をつなげる単元構想の工夫

地域の教材や体験的な活動を生かし、子供の意識をつなげる単元構想を行うことで、より主体的に学ぶことができるのではないかと考える。

(2) 子供の考えを深める判断場面の設定

子供の意識の流れや実態に合わせた判断場面を設定することにより、生産の仕事の工夫や努力について再確認し、働く人の思いや願い、地域の人々の生活とのつながりについて考えを深めることができるのではないかと考える。

(3) 見方・考え方を働かせる教師の手立て

子供の実態に合わせ、提示資料や発問、ツールなどを工夫することで、一人一人が自分の考えを持って伝え合い、考えを深めることができるのではないかと考える。

3 研究の実際

(1) 単元の目標

- ①椎茸作りの仕事の様子を、地域の人々の生活との関わりを踏まえて理解するとともに、調査活動、資料の活用等を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②農作物を作る仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目し、生産の仕事と地域の人々の生活とのつながりを考え、表現できるようにする。
- ③学習問題を追究・解決するために、地域に見られる生産の仕事について意欲的に調べ、椎茸作りの仕事の特色や人々の生活とのつながりを考え、表現しようとする。

(2) 展開の概要 (全 10 時間)

□□□□ ・ ・ 単元の学習問題

□□□□ ・ ・ 本時のめあて

段階	主な学習活動	予想される子供の反応
問題をつかむ	① 神山町ではどんな農産物が作られているか調べよう。	・ すだち・梅・椎茸が有名だね。茶や日扇、ふきも多い。 ・ 神山温泉の椎茸は大きいね。椎茸組合で作られている。
	「神山しいたけ」の人気のひみつをさぐろう！	
予想を立てる 調べ方を決める	② 学習問題について予想を立て、学習計画を立てよう。	・ 大きくなるように、水や栄養をたくさん与えている。 ・ 傷つけないように、丁寧に収穫していると思うな。
調べたしかめる	③ 「椎茸ができるまで」を資料で調べ、疑問に思ったことをまとめよう。	・ 菌床がたくさん。何個ぐらいかな。 ・ どんな世話をするのか。水やりや消毒はするのか。 ・ 機械もあるよ。どんなことに使うのかな。
	④⑤ 椎茸組合を見学しよう。	・ 広くてハウスがたくさんあるなあ。山の上だね。 ・ 試食させてもらおう。食べ応えがあって、おいしいね。
	⑥⑦ 見学して見つけた仕事の工夫をカードにまとめよう。	・ たくさんのハウスで椎茸を育て、一年中収穫できる。 ・ たくさんの人が働いていた。帽子をかぶって清潔にしていたよ。
みんなで考え 話し合う	おいしく品質のよい椎茸を作るために、どのような仕事の工夫をしているのだろう。	
	⑧ 椎茸づくりの仕事の工夫について話し合おう。 (判断場面) ・ たくさんの工夫を見つけたね。それぞれ何のための工夫かな。	・ おいしくて品質のよい椎茸を作るため、菌床に使うおがくずや、ハウスの温度を工夫していた。 ・ たくさん作るため、ハウスに菌床を3万個並べていた。菌床作りやパック詰めには機械を使っていたよ。 ・ 働く人は、「安心でおいしい椎茸をたくさんの人に届けたい」という願いを持っているんだね。
	⑨ 「神山しいたけ」が遠くまで出荷され、たくさん売れる理由を考えよう。	・ 東京や大阪など、県外にもたくさん出荷されている。 ・ 働く人たちが様々な工夫をし、おいしくて品質のよい椎茸を作っているから、県外でも人気があるんだね。
ひろげ深める	⑩ 「神山しいたけ」を買いたくなるような宣伝シールを作ろう。(判断場面)	・ 味も形もいいことを伝えたいな。おいしくするために、菌床のおがくずや育てる温度を工夫していたよ。 ・ たくさんの人に神山しいたけのよさを知って欲しいな。

4 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 見学やインタビューなどの実地調査、収穫体験、試食等の体験的な活動を取り入れることで、地域の農産物である椎茸のよさや魅力に気づき、仕事や働く人の工夫や努力を実感的に理解することができた。また、知識の構造図をもとにし、これまでの学習や生活経験などを踏まえ、子供の意識をつなげる単元構想を行うことで、3年生の子供たちが無理なく、かつ意欲的に学習することができた。
- ・ 判断場面で、仕事の工夫を「何のための工夫か」という視点で分類・整理することで、仕事の工夫を再確認するとともに、働く人の思いや願いを考えるための手立てにすることができた。
- ・ 視点を明確にするために資料を段階的に提示したり、一人一人の考えを明確にするため、ホワイトボードなどのツールを活用したりすることで、子供が自分の考えを持ち、互いに伝え合うことができた。

(2) 課題

- ・ 仕事の工夫を分類するという判断場面を設定し、この学習活動を中心に前後のつながりを考え単元を構成したことで、3年生の子供にとって取り組みやすい学習になったが、反面、工夫を一律に扱っているため、考えの見取りや交流を十分にしないと、獲得する知識が浅いものになってしまう可能性がある。
- ・ 判断場面の設定が「みんなで考え話し合う」「広げ深める」段階のものだったが、前半部分にも設定するなどし、子供の思考力・判断力をさらに伸ばしていく必要がある。
- ・ 自分の考えを持ち、伝え合うことはできたが、友達の意見と比べたり、自分の考えを深めたりするという点では個人差が大きい。伝え合い、自分の考えをさらに深めるための手立てを工夫していきたい。